（別紙4）　　令和　2　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4372500704		
法人名	社会福祉法人　不動会		
事業所名	グループホーム　おとぎの国		
所在地	熊本県山鹿市鹿本町津袋585		
自己評価作成日	令和3年2月12日	評価結果市町村報告日	令和3年4月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	NPO法人　九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和 3 年 3 月 12 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホームおとぎの国の周囲には整備された庭園があり、南欧風に統一された建物は優雅さと安らぎを与えている。また建物内は利用者の皆様がお互いの顔を見ながら楽しんで食事のできる食堂や個人のお部屋には入所以前に愛用されていた家具や馴染みの物を持ち込むことで、穏やかで安心した時間を過ごして頂けるよう配慮している。
ホームでのケアは理念に沿い、利用者様自身の望みやご家族の意向を職員全体で把握し、ケアプランへ反映しながら、利用者様一人一人に寄り添った支援や対応を行っている。
食事作りの際には利用者様の好みや体調に合わせた健康的な食事作りを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

法人の関連事業所が併設されている敷地は緑と季節の花が溢れ、訪問者を華やかな気持ちで迎え入れてくれます。今年度は管理者交代があり、新たな体制のもとこれまでのケアが継続されています。職員研修ではグループホーム独自のケアや寄り添いのあり方を伝え、法人理念である「笑顔で　明るく　優しい介護」、事業所理念である「あせらず、くさらず、のんびりと…」が実践されている様子が聞かれました。今年度は感染症予防の面から地域との交流や気軽な外出が難しい状況でしたが、恵まれた自然環境を楽しみ、出来る範囲でのドライブや外出、行事を工夫されています。事業所で長い期間過ごす入居者も年々年を重ね個々の支援も多様化してきたようですが、入居者それぞれの生活を大切にした支援は変わることなく続いています。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念、基本方針とグループホーム独自の理念、職員憲章等を念頭におき、サービスを提供している。申し送りや会議時には、理念を基にした振り返りを行い、実践につなげてきている。	法人理念、基本方針、事業所理念はこれまで継承されてきており、事業所の姿勢に根付いている。玄関に掲示することで来所者にも事業所の姿勢を示し、理念の共有に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年はコロナの影響を受け、地域の行事等には参加することが出来なかったが、地域の方々から家でとれた野菜を貰うなどコロナ禍の中でも交流は続いている。	例年、地域で開催される行事、法人・事業所主催で介される行事での地域住民との交流が続いている。今年度は開催が難しい状況であったが、地域住民との日常的な関わりは続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の皆さんの認知症等に対する相談にも応じており、ホームの施設だよりを地域（地元の3地区）にも開放し、回覧も数年前より行ってきている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	以前は2ヵ月1回会議を行っていたが、コロナの影響を受け、会議は中止している。施設から状況報告・質問用紙等の資料を運営推進会議メンバーへ送付し、意見等を求めた。	運営推進会議には地域代表や入居者家族等だけでなく、入居者代表、地域の警察駐在員も参加している。今年度は感染症予防の面から開催が難しい状況であったため、会議メンバーへアンケートを実施し、意見を得る機会を作った。	今年度は運営推進会議が行われていない状況が確認できました。年度当初は運営推進会議メンバーへのアンケートが実施されたようですが、このような時期であるからこそ、定期的に意見を得る機会作りに期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へは、毎回、市役所の長寿支援課からの出席があっている。市の担当者や市社協からの訪問もあり、情報交換等を行いながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議の他、日頃の報告・連絡・相談等で事業所の取組みを伝え、協力関係の構築を行っている。今年度は感染症対策のため連絡も密となった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアは法人全体の方針であり、職員全員が十分に理解している。コロナ禍の為、外部研修や集団で集まっての研修は中止になったが、委員会活動(身体拘束適正化委員会)として短時間で研修を行い、研修内容を職員へ報告。理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んできている。また期間を設けながら現在の支援方法が身体拘束に当らないかを検討し利用者の立場に立った支援を行っていく。	法人全体で身体拘束をしないケアを謳っており継続した取組みを行っている。法人で2ケ月1回開催する身体拘束適正化委員会には事業所からも参加し、日頃の取組みや状況を報告している。委員会開催後は職員へ報告、会議でも日頃のケアについて振り返りの機会を持ち取組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底			

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待はありません。職員会議でも勉強会を行い、虐待ゼロに向け全員で取り組んできている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前入居されていた利用者がこの制度を活用されており、研修会でも学んできている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者と家族の方に、十分に説明し理解を得ている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関先や法人施設にも投書箱を設置し、寄せられた意見や要望等は真摯に受け止め、改善等に取り組む体制を整えている。コロナ禍で家族には面会を控えて頂いたこともあり、状態報告等の電話を細目行ったことで、家族の気持ちや要望等をその都度聞くことが出来た。	今年度は感染症予防の面から来所による面会が難しい時期もあったが、積極的に事業所から家族へ電話等を利用し状況を伝え、意見・要望を確認してきた。面会方法の工夫により直接来訪頂いた際にも職員より声をかけ意見を得ている。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホームでの会議や打ち合わせには、自由に意見を出し合える雰囲気と時間がある。GHの理念は、当時のスタッフ全員の意見から生まれており、行事や環境･ケアプラン等の改善に活用し反映している。	毎月の職員会議だけでなく、日頃の業務中にも職員は管理者へ意見を述べる機会を持つ。職員からの意見は業務改善にも繋がり、必要に応じ法人での対応も行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きがいのある職場であり、職員の資格取得支援体制も充実している。更に、自己評価や外部評価等に取り組むことで、自己分析と共に、職場環境や意識を改革し、向上させて行くことが出来る。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人での施設内研修会は中止になったが、毎月職員会議を行い、その際に研修テーマを決めてテーマごとの研修を実施している。また研修を通じて職員一人一人のスキルアップにつなげている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は近隣地区のグループホーム等と定期的に講師を招き、研修会を開くなど行っていたが今年はコロナ影響もあり、外部研修等への参加ができなかった。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階では、特に注意し、時間をかけて、対話や状態観察を行ってきている。又、本人が不安になられないようにと雰囲気や環境に配慮し関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	当初に限らず、その後の面会時や電話等でも家族等と相談する機会を設け、要望等を聞き、安心されるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居日やその前後に、本人や家族･担当ケアマネージャー等より情報を得、相談しながら、必要なサービス等を取り入れるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の自立支援に繋がるのか、楽しく過ごせているのか等を念頭に置きながら、サービスを提供している。又、以前からの生活や本人が得意とされていたことを聞き、教わったりしながら、関係を築いていくようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で家族には面会を控えて頂いたこともあり、定期的に写真入り便りの発送や電話で近況報告等を行った。病院受診などは出来るかぎり家族支援でお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前は家族の協力を得ながらのお墓参りや法事などの他、同郷の友人･知人の訪問もあっていたが、コロナ禍の面会を控えて頂いた。しかし以前からの馴染みの関係が維持されるよう電話や手紙での対応を行っている。	従来、家族面会も多く、知人や地域からの来訪も多く見られ交流が続いていた。今年度は多様な往来が難しい状況であったが、何よりも家族との関わりを大切に支援した。退職した職員との交流も続いている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者皆さんの性格や相性をスタッフが把握し、トラブルを防ぎながら、協調性を高め合える環境づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当方からは、前入居者の方を訪ねており、必要に応じては当時の経過等を説明している。又、退所された方や家族が来荘される時もある。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの奥にある思いや希望する暮らし方などの把握に努め、本人の意向を第一に（困難な場合には、表情や反応から検討した本人の思い･家族としての思い等…）考え支援している。	今年は入居者の入れ替わりも無く、また近年の高齢化等により意思表示が難しくなってきた現状もある。入居者の意向の把握のため、職員は寄り添い、家族の意見も参考にしながら入居者本位のケアを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、前担当ケアマネージャー等からの情報を得て把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人や家族との対話やスタッフ間での確認･観察記録等での情報により、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望をくみ取りながらも、利用者の残存機能をどう活用していくか、どう向き合い何を大切に取り組んでいくか等を話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	日々の様子や毎日の申し送りで把握している状況、職員会議での意見をもとに入居者本位の介護計画への反映を行っている。現在担当決めは行っておらず、全入居者の様子を全職員で共有している。家族には電話連絡や面会時に意向を確認し、介護計画へも反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	健康チェック表や個別のチェック表を通して、　また、体調異常時や経過観察等の情報もスタッフ間で共有し、ケアの実践や見直しに活かしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人全体の施設には、多種多様のケアサービス体制が出来ており、それらを活用し、その時々に生まれるニーズに対応して、生きがいや喜びを感じられる様な柔軟な支援ができるように取り組んできている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援できている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望される医療機関で適切な医療を受けられるように関係を築いており、情報も提供している。	入居前からのかかりつけ医の継続した受診を支援している。現在殆どの入居者が母体の医療機関を利用しており、職員介助にて通院している。状況によっては往診もある。専門医受診の際は出来るだけ家族の協力も依頼している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の個々の体調や状態の変化に応じて、適切な受診や看護支援が受けられるよう協働している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状態変化や状況に応じて、早期の対応が出来るよう医療機関との関係づくりを行ってきている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームへの入居時より、重度化された場合の事業所で出来る範囲の対応について説明し了解を得ている。終末期となる時期には再度家族と話し合い、医療等に関する希望を確認しながら対応している。「終末期もここでお願いしたい……。」と希望される家族が多く、今日まで、9名の方を看取って来ている。	入居時に事業所の対応等を家族にも説明し同意を得ている。実際にその時を迎えた際には自然のことと受入れ、入居者の最善のための支援を家族・関係機関と話合いを重ねながら対応を行っている。母体が医療法人との連携であることからも家族の安心も大きく、医師・看護師の訪問も受けながら支援を行っている。希望により医療機関への移行の例もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当は職員全員が行えるよう勉強会を行ってきている。又、隣接の法人施設にはAEDを設置している。		
35	(13)	○災害対策	コロナの影響もあり、消防署立ち合いでの		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練が行えなかった為、災害が起きた場合を想定しどのように動けばいいのかを職員同士で話し合い、確認を行った。実際に災害が起きてしまった場合には協力依頼が行えるよう近隣住民の皆様へ声かけを行っている。	例年、年2回の避難訓練は消防署立ち合い行い講評を受けている。今年度は職員間で非常口の確認等を行い、事業所内での対策を共有した。これまでの取組みから地域との協力体制も整えており、法人事業所間の連携も取れている。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳とプライバシーの保護は施設の方針でもあり、一人ひとりの性格等に配慮した言葉かけや寄り添うケアを心掛けて来ている。	入居者に対して日頃から声掛けや対応に配慮している。職員で「認知症と接する」ことに対して振り返る場を持ち、入居者の尊重とプライバシーの確保について考えた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誕生会や特別な日には本人の希望メニューを準備し、日々の暮らしやショッピング、外出時の食事等でも、本人の思い（判断）で決めてもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や朝食は希望される時間帯であり、起床と就寝にも時間の幅を持たせており、行事のない昼間は、各々が思い思いのペースで過ごされる日が多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望により、訪問美容（理容）等を利用されている。又、特別な日や外出時の化粧や服装もその人らしい身だしなみ等ができるように相談しながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の誕生日当日には本人のリクエストメニューを準備し、食事を楽しんで頂く。献立を考える際にチラシや料理雑誌を利用者に見てもらい、希望の食材を食事作りに取り入れるなどして食事全体を楽しんでもらう。	入居者の好みや希望も取入れて職員が考える献立を基本とし、全て職員の手作りにより提供している。献立を振り返り、管理栄養士からのコメントも参考としている。季節の行事や誕生日には祝いの食事が並び、入居者の慶びになっている。今年度は感染症予防の面から難しい状況であったが、通常は食事介助も行いながら職員も同じ食事で食卓を囲み、会話を楽しみながら時間を過ごしている。	従来から「食」を大切にし、季節の食材を使った料理や保存食作り等、また入居者の日々の食事作りへの関わりに継続した支援の様子が窺えました。高齢化もあり、食事介助の必要性も増えたようですが、入居者の「食」の楽しみ、関わり作りを是非継続して頂きたいと思います。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士のアドバイスを受け、栄養バランスや水分量に注意しながら行ってきている。又、季節感のある食材を取り入れ、食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師から口腔ケアに係る技術的助言・指導を受け、各々の口腔状態に応じたケアを行い、口腔内の清潔保持に努めて来ている。又、法人内で定期的に口腔ケア委員会の会議を行うと共に、食後の口腔ケアを誰が行ったかも記録している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。その人の状態に適したおむつ（パンツ）を使用すると共に、パターンに合わせてトイレ誘導･介助を行い、排泄の自立にむけた支援を行っている。	平均年齢も高くなり、年々多様な対応が必要となってきているが、昼間はパットを利用しながら出来るだけトイレでの排泄を支援している。オムツ等は安易に使用せず、原因や工夫を考え、職員間で意見交換を重ね使用品の変更を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材を使った料理やオリーブオイル･きな粉豆乳など飲食物の工夫と水分補給･日中の運動や排便体操等で、便秘予防･自然排便に努めて来ている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の希望に応じ、いつでも入浴できる体制をとっている。入浴中の安全な見守りと体調管理に、特に注意を払ってきている。	週2回以上を基本とし、入居者の希望の時間の入浴を支援している。入居者の身体状況の変化によりシャワー浴も増えてきたが、安全と清潔保持を第一に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自立支援と各々の生活習慣が基本であるが、昼間の離床と体調に応じての運動、少し活動的に過ごすこと等で夜間安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬状況を書面で記録しており、効能や副作用、症状の変化等についても話し合い理解に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞を読むのが楽しみな人、料理（台所仕事）や書道が好きな人など、それぞれの好み･得意分野があり、それらを活用し、生活の中で張りのある日々を送られるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響もあり、外出が以前に比べ減ってしまった為、施設付近での散歩や、ドライブなどを行い、近場でも外出気分を味わって頂くよう努めた。外出やショッピングを楽しみにしている利用者もおられる為、コロナの収束を待ち望んでおられる。	例年、季節の花見学や地域・法人の催事、故郷訪問等、日常的な外出や計画による外出も多いが、今年度は感染症予防の面から難しい状況であった。今年は敷地内のバラ園や季節の花を見ながら散策を楽しんだり、近くの公園へのドライブで外出支援を行った。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ショッピングや外食時等には、各々での支払いをお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	便りや贈り物等へのお礼の他、本人の要望があれば、電話をかけ家族等と話をされている。遠方のご家族からの電話等は特に喜ばれ、毎年、年賀状も出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物が吹き抜けで、二カ所のリビング（居間と食堂）がガラス越しに眺められる。光の庭や玄関の周りは、各々が一つの庭園であり、自然の光や季節の草花を楽しみながら過ごせるようになっている。	中庭を囲む建物には温かく明るい光がさしている。共用空間では入居者が掃除を手伝う姿もあり、家そのものである様子が聞かれる。回廊式廊下のどこからでも楽しむことが出来る中庭の手入れされた緑で四季を感じることが出来る。敷地内も四季それぞれに木・花が入居者の目を楽しませる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	天気や気候に応じて、玄関横のベンチなどで外気浴をしたり、居間のソファーや食堂で、気の合った人々と思い思いに過ごしたりもされている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた馴染みの家具（タンス、机、椅子）や思い出の品々、家族の写真などが持ち込まれている。	洗面台が備え付けられた居室の扉にはステンドグラスが施され、明るさ・華やかさがある。室内には使い慣れた家具や生活用品が持ち込まれ、家族の関わりを感じることができる。今年度は面会受入れが難しい時期もあったが、例年、それぞれの居室で家族とのんびりと過ごす姿も見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーの構造で、見通しもよく、各々の行動や居場所も確認しやすい。歩行器を見つけ運動される人や空いている居間のソファーで談話したり休息される方々もおられる。		

２　目標達成計画

事業所名　グループホームおとぎの国
作成日　令和　３年　４月　１９日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目　標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	コロナ禍ということもあり運営推進会議を中止していた。施設で何が行われ、利用者がどのような状況や状態であるのか会議メンバーへ報告できていなかった。またコロナ禍だからこそアンケート等を配布し意見を伺う機会を持つべきだった。	全国、熊本県内、山鹿市におけるコロナの状況を考慮しながら、2か月に１回運営推進会議を実施する。運営推進会議が中止になった場合は会議メンバーへ資料の配布とアンケートで意見を伺う機会を作る。	コロナやその他の感染症の流行を見極めながら、予防と感染対策を行った上で会議を開催する。また会議を中止した場合、速やかに資料を会議メンバーへ郵送する。	継続
2	40	食事を提供する際、季節の食材や利用者の希望に沿った食事の提供は出来ていたが、高齢化や要介護度が上がった方たちへの食事の工夫ができでいなかった。	利用者一人一人の身体や嚥下状態、栄養バランスに配慮した食事を考え提供する。また食事を通して季節を感じて頂けるよう、季節の食材も取り入れる。	食事摂取量をチェックし、利用者の口に合う食事の提供が出来ているのか細目に確認する。チラシや料理本等を見て、リクエストされたメニューを提供することで、食事意欲を高めてもらう。嚥下状態を細目に観察しながら、その方にあった栄養バランスのとれたメニュー、また食事形態等の提供を行う。	継続

注１）項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
注２）項目数が足りない場合は、行を追加すること。